

関係代名詞の *that/which* rule が破られる一要因 — 関係代名詞節の意味を補足する重要な情報が先行文脈に含まれる場合¹

小 西 和 久

(早稲田大学)

1. はじめに

「Watergate 事件」(The Watergate Scandal) は、1972年6月17日、米 Washington D.C.の Watergate ビルで起きた。民主党全国委員会本部に5人の男が侵入し盗聴器を仕掛けようとして逮捕された事件は、証拠隠滅や司法妨害へと発展。1974年8月9日、第37代米国大統領 Richard Nixon は辞任に追い込まれた。大統領の事件への関与を白日のもとに晒したのが *Washington Post* 紙の2人の若手記者による執拗な取材活動であったが、彼らはその詳細を描いたノンフィクション、*All the President's Men* (邦題『大統領の陰謀』²) に次の一文が登場する (下線と太字は筆者)。

(1) A sweep **which** was conducted by electronics experts for a fee of \$5000 turned up nothing.³

「(*Washington Post* 紙の関係者の自宅などに) 盗聴器が仕掛けられていないか5千ドルを支払って専門家に調べさせたが、何も発見されなかった」といった意味である。関係代名詞の選択にあたっては、主格・目的格のいずれの用法でも、先行詞が「物」や「事」の場合には、*that* と *which* は交換可能⁴ というのが一般的な理解である。従って、何の変哲もない用法に思える。しかし、同書の著者が米 *Washington Post* 紙の記者 Carl Bernstein と Bob Woodward であることを考慮すると、なぜ(1)にあるような制限節で *that* ではなく、*which* が用いられたのかが疑問となる。理由は、米国の一流紙では (1) のような制限節では *that* を使うことが通例となっているからである。同紙のスタイルブック *The Washington Post deskbook on style* は次のように解説している。

The relative pronoun **that** is used to introduce a restrictive clause and does not take commas. (The house **that** burned was 50 years old.) **Which** is used to introduce a nonrestrictive clause and takes commas. (The house, **which** burned, was 50 years old.)⁵

つまり、制限節では *that*、非制限節ではカンマを付して *which* を用いる、と簡潔に説明している。この原則は「*that/which* ルール」と呼ばれ、先行詞が「物」、「事」、ニックネームのない「動物」に適用されるが、このルールは *Washington Post*、*New York Times*、

Economist、*Guardian* などの米英の一流ニュースメディアのスタイルブックには必ず記載されている。

従って、(1)に見られるような関係代名詞制限節では、*that/which* ルールに従う限り、*that* が選択されるべきということになる。では、*Washington Post* 紙の二人の記者は、このルールを意図的に破って *which* を用いたのであるうか。もしそうならば、どのような理由があり得るのか。本稿ではこれらの点を検討したい。

因みに、本稿筆者は英米の一流ニュースメディアが、時折 *that/which* ルールを意図的に破り、制限節で *which* を用いる現象を *The JASEC BULLETIN* 第 24 巻、第 25 巻、第 26 巻⁶ で考察したが、(1)に見られるような用例は対象外となっていた。

2. *All the President's Men* の *that/which* 用法 — 使用頻度の観点から

同書は 1974 年に出版されたが、Bernstein と Woodward はニュースを書く際には自社のスタイルブックに従って *that/which* を使い分けていた筈である。しかし、同書はノンフィクションである。もし二人が、ニュースを書く場合とは異なる基準で *that/which* を用いていた場合には、筆者がこれまでに考察してきた英米の一流ニュースメディアが制限節で時折用いる *which* の用法分析（本稿第 3 項参照）の延長線上では、(1)の用例の解明は困難な可能性がある。そこで先ず、*All the President's Men* の執筆にあたって、二人が *that/which* を異なる基準で用いたかどうかを推測する必要がある。

その第一の方法は、同書における制限用法の *that* と *which* の使用比率を、*Washington Post* などの米国の一流メディアにおける使用比率と比較することであろう。もし同程度の使用比率であれば、*that/which* ルールが同じように遵守され、時折、同じような理由で制限用法の *which* が用いられたと推察することが可能ではなかろうか。

「時折」とはどの程度の比率であろうか。*Longman Grammar of Spoken and Written English*⁷ には、米国のニュースメディアの英語を対象にしたコーパスを用いて関係代名詞制限用法の *that* と *which* の使用頻度を示すデータが掲載されている。使用比率を計算してみると次のようになる（表 1 参照）。

制限用法関係代名詞	American News
<i>that</i>	3,400 (81%)
<i>which</i>	800 (19%)
合計	4,200

表 1 米国のニュースメディアの関係代名詞制限用法 *that* と *which* の使用比率

表 1 の“American News”のデータは主に *Associated Press*、*San Jose Mercury*、*Wall Street Journal* などの米国の一流メディアが報じた記事から抽出されている。そして、*San Jose Mercury* が独自のスタイルブックを使用しているかは不明であるが、*Associated Press* や *Wall Street Journal* のスタイルブックには *that/which* ルールが記載されている。一方、主に Bernstein と Woodward が 1970 年代前半に *Washington Post* 紙で Watergate

事件を報じた際に書いた 10 の長文記事⁸（約 2 万語相当）を参照すると、制限節で用いられている関係代名詞 *that* と *which* の総数は 44 例で、内 *that* が 38 例（86%）、*which* が 6 例（14%）となる⁹。データとしては極めて限られているが、用法を参照すると *that/which* ルールが採用されているように思われ、*Longman* のデータとも頻度的に大きな差はない。

では、*All the President's Men* の *that/which* 比率はどうか。336 ページからなる同書で制限用法の *that* と *which* が用いられている頻度を数えてみた（表 2 参照）。

関係代名詞制限用法	用例数（比率）
<i>that</i>	224（81%）
<i>which</i>	54（19%）
合計	278（100%）

表 2 *All the President's Men* にみる関係代名詞制限用法 *that* と *which* の使用比率

that は関係代名詞、代名詞、形容詞、接続詞として合計で 2017 例使用されており、その内、関係代名詞制限用法は 224 例であった。*which* は関係代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞として 170 例で、その内、関係代名詞制限用法は 54 例であった。つまり、関係代名詞制限用法の *that* と *which* の総使用例に占める前者の比率は 81%、後者は 19%となる。

Longman のデータ、*Washington Post* の 10 の記事から抽出したデータ、*All the President's Men* からのデータを比較すると、*that* と *which* の比率に大きな差はなく、「量的」な観点から推測すると *that/which* ルールが基本的には遵守されているように思われる。

3. *All the President's Men* の *that* と *which* の用法

では *All the President's Men* で用いられている制限用法 *which* の用法とニュースメディアの用法との間に「質的」な類似性はあるのだろうか。54 例中用例(1)を含む 7 例は後述のように類似の用法と思われるため、先ず、残りの 47 例を *which* が出現する構文の特徴（以下のパターン別番号の後の記載を参照）から次の 8 パターンに分類してみた。紙幅の関係から各パターンの典型的な用例を 1 例選択し、ニュースメディアに見られる用例と比較してみた（太字、下線は筆者）。

<パターン 1：同一文中で異なる品詞の *that* の使用を回避—19 例（35%）>

55 例中 19 例がこのパターンに属し、同書で使用されている制限用法 *which* で使用頻度が 35%と最も高い。

(2) But his friend assured him that there would be nothing unfair about a story which reported the address-book and country-club connections.¹⁰

この箇所は邦訳では「しかし、住所録とカントリー・クラブの関係を報じて、その記事が公正を欠くことには絶対にならないだろうとその友人はウッドワードに保証した」¹¹と訳されている。この箇所で *which* が用いられた理由は、同文中で接続詞 *that* が使われて

いるためと思われる。 *The Associated Press Stylebook and Briefing on Media Law 2015* には、次の解説が見られる。

The pronoun *which* occasionally may be substituted for *that* in the introduction of an essential clause that refers to an inanimate object or an animal without a name. In general, this use of *which* should appear only when *that* is used as a conjunction to introduce another clause in the same sentence: *He said Monday that the part of the army which suffered severe casualties needs reinforcement.*¹²

この用法に関しては、つぎのような類例がニュースに見られる。

(2-1) Jacqueline Uriyo of the Kilimanjaro Christian Medical Centre in Moshi, Tanzania, has conducted research **which** shows that HIV would appear to affect the developing brain.

(*The Economist*)

なお、次例では、指示代名詞 *that* が形容詞として用いられており、これとの混在を避けるために *which* が用いられている。

(2-2) Cain had built his lead after Bachmann and Perry proved unable to hold onto that part of the Republican electorate **which** finds Mitt Romney prohibitively distasteful or untrustworthy, or both.

(*The New Yorker*)

ただし、米国の一流メディア紙で時々、異なる品詞の *that* が同文中で用いられるケースが見られる。

(2-3) The cresting intrigue Monday follows a flurry of sensational developments in recent days that suggest that Mueller is approaching a critical point of his investigation and that the President's personal jeopardy could be deepening.

(*CNN*)

<パターン 2 : 関係代名詞節の構造が複雑な場合—10 例 (19%)>

(3) He and Woodward discussed how the stories had been covered, how the reporters had dealt with sources and under what circumstances they had met and communicated. The line was drawn at a point **which** satisfied Bradlee's reportorial instincts and responsibilities as an editor, as well as Bernstein's and Woodward's promises of anonymity to their sources.¹³

He は *Washington Post* 紙の編集主幹 Benjamin Bradlee だが、この箇所の邦訳は分かり難いので、若干意識すると次のような意味となろう。「ブラッドリーは、ウッドワードがバー

ンスタインと共にウォーターゲート事件をどのように取材してきたのか、情報ソースをどのように取り扱い、どのような場所でどのようにして情報を収集してきたのか、質問した。ブラッドリーは自身の記者としての嗅覚が満たされ、編集者としての責任を果たすに足る一線、ウッドワードは彼自身とバーンスタインが情報ソースに約束した匿名性を越えることのない一線を守った」。このように関係代名詞節が複雑な構造を持つ場合には、読み易さに配慮して、他品詞の *that* ではなく、品詞数が少ない *which* が選択される傾向がある。一流メディアでは次のような用例が見られる。

(3-1) Another sector which has had its moment in the sun (topping the charts in 2010 and 2013) despite its dependence on the health of the economy has been the consumer discretionary group.

(*The Economist*)

(3-2) Analysts say the credibility of party leaders is being undermined by the frequent discrepancy between official statements and statistics and independent information which is increasingly available online, despite the efforts of China's Web censors.

(*Wall Street Journal*)

(3-3) The Environmental Protection Agency has already proposed restrictions on carbon emissions which would in practice ban new coal-fired plants after 2013 unless fitted with carbon capture and storage (CCS)—a technology has not yet been made to work on a commercial basis, though facilities planned for California and Texas may change that.

(*The Economist*)

なお、*A Comprehensive Grammar of the English Language* に次の解説がある（下線は筆者）。

When complex phrases or clauses intervene between the antecedent head and the relative pronoun, *which* is generally preferable to *that* and very much preferable to zero:

I have [[*interests outside my immediate work and its problems*] *which* I find satisfying.¹⁴

関係代名詞と先行詞句の主要部 (head of the antecedent phrase) の間に構造が複雑な句（下線部参照）や節が介在している場合には、*that* に代えて *which* の使用が好まれる傾向があるとしているが、関係代名詞節の構文が複雑な場合にも *which* が好まれる傾向があると言えよう。

<パターン 3 : 先行詞が関係代名詞から離れている場合—7 例 (13%)>

(4) There were similar subpoenas to other banks and to the phone company for “any and all documents and records” pertaining to the other three Watergate suspects from Miami. Dardis’ name was on each. Bernstein took notes on all the subpoenas in the file which bore Dardis’ name.¹⁵

邦訳では「マイアミのウォータゲート事件被疑者ほかの三名に関連ある『いかなる文書、記録』の提出もほかの銀行や電話会社に求めた、似たような請求状もある。ダーディスの名前がどの請求にも出ていた。バーンスタインはファイルのなかでダーディスの名前がある請求状をすべて書き取った」¹⁶ となっている。ウォータゲートビルへの侵入犯5人の内3人がマイアミ在住であったため、マイアミの地方検事局が捜査に絡んだ。ダーディスは同検事局の捜査主任で、バーンスタインはウォータゲートビルへの不法侵入犯に関する情報を同氏から得ようとしている。本用例では関係代名詞節が修飾するのがfileなのかsubpoenasなのかが分かり難いため、先行詞は遠くに位置する後者であることを示すために *which* が用いられている。このような *which* の用法は *exceptional which*¹⁷ とも呼ばれ、次のような用例がニュースメディアにも見られる。先行詞に実線下線、紛らわしい名詞に点線下線を付す。

(4-1) GlaxoSmithKline has raised its bet on a promising drug for HIV/AIDS by redrawing a deal with Japan’s Shionogi which gives it a much bigger economic interest in the new product.

(Reuters)

(4-2) Mt. Gox has blamed the loss of the bitcoin on a bug in the bitcoin software which left it open to hacking.

(The Wall Street Journal)

<パターン 4 : 先行詞に密接に関連する情報が次文以下に記載されている場合—4 例 (7%)>

(5) The telephone book listed the private security consulting agency run by McCord. There was no answer. They checked the local “crisscross” directories which list phone numbers by street addresses. There was no answer at either McCord’s home or his business. The address of McCord Associates, 414 Hungerford Drive, Rockville, Maryland, is a large office building, and the crossreference directory for Rockville lists the tenants. The reporters divided the names and began calling them at home. One attorney recalled that a teenage girl who had worked part-time for him the previous summer knew McCord, or perhaps it was the girl’s father who knew him. The attorney could only remember vaguely the girl’s last name—Westall or something like that. They contacted five persons with similar last names before Woodward finally reached Harlan A. Westrell, who said he knew McCord.¹⁸

James McCord は盗聴侵入事件を指揮した元 CIA 職員であるが、上記の引用部分で 2 人の記者は McCord の背景情報を入手すべく奔走している。電話帳に載っている、McCord が経営する警備コンサルティング事務所に電話をするが返事がない。そこで、住所で電話番号を調べることができる複数の電話帳を調べ、そこに載っていた McCord の自宅と会社の両方の番号に電話するが返事がない。そこで、Maryland 州 Rockville にある McCord Associates が入居している大きなビルに住む他の住民に連絡して情報を得るという件である。*criss-cross directories* から得られた情報と下線部の取材活動が密接な関係にあることより、*which* が用いられたものと思われる。

先行詞・関係代名詞節の内容と後続の文(章)の記載内容に密接な関係がある場合に、制限用法の *which* が用いられるという傾向はニュースメディアにも見られる。例えば、次のような例がある。

(5-1) Internships can even be bought. Washington has several organisations which promise to get students an internship for a fee. The largest is the Washington Centre, which has placed nearly 50,000 interns since 1975. It charges \$6,200 for procuring a ten-week summer position (and offers housing for an extra \$4,350). It says it has placed clients at the Treasury, the State Department and the White House. Dream Careers says it has sold more than 13,000 internships in firms from Standard & Poor's to Moschino. Fees for its eight-week internships, including housing, start at \$8,000.

(*The Economist*)

organisations which promise to get students an internship for a fee の例が後続の 5 文に紹介されている。

(5-2) Some of the new demand comes in countries which used to sell gas, not consume it. Egypt has stopped exporting LNG in order to keep domestic supply plentiful and cheap. Gas consumption is rising fast in Indonesia and Algeria, once seen as dependable exporters.

(*The Economist*)

countries which used to sell gas, not consume it の例示が後続の 2 文でなされている。

<パターン 5: 関係代名詞節内にカンマやコロン等を介して例示がある場合—3 例 (6%)>

(6) At a press conference that same afternoon, June 22, President Nixon made his first public comment on the break-in. “The White House has had no involvement whatever in this particular incident,” he said.

Bernstein and Woodward lingered over the phrase “this particular incident.” There were already too many coincidences which couldn't be dismissed so offhandedly: An attorney in Washington had said he could positively identify Frank Sturgis as one of the several men who had attacked Pentagon Papers defendant Daniel Ellsberg outside a memorial service for the late FBI director J. Edgar Hoover in May. One suspect's

address book contained a rough sketch of hotel rooms that were to be used as headquarters by Senator McGovern at the Democratic convention. An architect in Miami had said that Bernard Barker had tried to get the blueprints of the convention hall and its air-conditioning system. Hunt's boss at the Mullen firm, Robert Bennett, had been the organizer of about 100 dummy campaign committees used to funnel millions of dollars in secret contributions to the President's reelection campaign. McCord had been carrying an application for college press credentials for the Democratic convention when he was arrested. He had recently traveled to Miami Beach. Some of the accused burglars from Miami had been in Washington three weeks before their arrest, when the offices of some prominent Democratic lawyers in the Watergate office building were burglarized.¹⁹

この箇所の冒頭部文の邦訳は次のようになっている。「同じ六月二十二日の午後、新聞記者会見で、ニクソン大統領は不法侵入事件に関する初の公式見解を発表した。『ホワイトハウスはこの特殊な事件にいっさい関係していない』。／バーンスタインとウッドワードは「この特殊な事件」という表現にこだわった。事件を限定するような言い回しで片付けられない偶然の一致がすでにもうにも多いのだ。」²⁰ この後、コロンを打って、下線を付した「7つの偶然の一致」が列記されている。

以下のニュースメディアからの用例にも見られるように、関係代名詞制限節の後にコロン、ダッシュ、あるいはカンマを付して制限節に修飾された先行詞に例示や説明を加える場合に *which* が用いられることが多い。

(6-1) Facebook keeps buying firms **which** could one day lure users away: first Instagram, then WhatsApp and most recently tbn, an app that lets teenagers send each other compliments anonymously.

(*The Economist*)

(6-2) One example is the Surface Book, a high-end laptop. It features a detachable screen **which** doubles as a computing tablet—a combination that has already found a following, and according to some, offers better value than comparable laptops from Apple.

(*The Economist*)

<パターン 6 : 非制限用法のカンマが省略されている場合—2 例 (4%)>

(7) When Dahlberg came on the phone, Woodward said he had tried him at his Florida home first. Was that a winter home?

“Yes,” Dahlberg said.

About the \$25,000 check deposited in the bank account of one of the Watergate burglars . . .

Silence.

The check **which**, as you know, has your name on it. . . .

Silence.²¹

この箇所は邦訳で次のように訳されている。

ダールバーグが電話に出ると、ウッドワードは、はじめフロリダの別荘に電話をかけたことわった。あれは冬の別荘か? 「そうだ」とダールバーグは答えた。

ウォーターゲート事件被疑者の一人の銀行口座に預けた二万五千ドルの小切手につて

沈黙

ご存知のように、その小切手にあなたの名前が書いてある

沈黙²²

上記のやり取りから、7行目の *The check* が何を指すかに関して両者の認識は共有されている。従って、続く *which* は非制限用法である。*check* の後にカンマがないので制限用法に見えるが、意図的なカンマの省略と見なすべきである。省略された理由は、次のように書くと明らかになる。The check, which, as you know, has your name on it. . . . 本来はカンマを打つべき文でも、カンマが多すぎる場合には誤解を招かなければ、カンマを省略するケースが多い。ニュースでも次のような例が頻繁に見られる。

(7-1) Germany **which, in some ways**, is closer to Britain than France in its economic thinking supported these initiatives.

(Reuters)

(7-2) Yet the small amount of revenue they raise compared with what they spend (local taxes provide about 40% of their income) means that they remain reliant on the central government **which, deep in debt itself**, has to spend about 60% of its money on local government.

(The Economist)

<パターン 7: 制限用法の関係代名詞の直後に挿入がある場合—1 例 (2%)>

(8) The next morning, the reporters studied Woodward's notes. They were now thinking in terms of a report **which, like the October 10 story on the massive campaign of spying and espionage**, would attempt to put Watergate in perspective.²³

「翌朝、バーンスタインはウッドワードが取った（ディープスロートとの会話の）メモを二人で検討し、10月10日付の記事のように、ウォーターゲート事件を広範な諜報活動の一環としてとらえた報道をしようと考え始めていた」といった意味だが、*report* は関係代名詞節制限節で限定修飾されている。本来は *that* を使うべきだが、直後に一呼吸置いて読まれる挿入があるため、*which* が選択されたと思われる。この用法は次のようにニュースでも頻繁に見られ、挿入部にカンマがない場合も多い。

(8-1) GE, for one, is betting on it. As part of a \$600m investment in solar businesses it is completing America's biggest solar-panel factory near Denver, Colorado. It will use thin-film technology to make larger and lighter panels **which it reckons** will cut installation costs by about half.

(*The Economist*)

(8-2) China's current-account surplus for 2011 shrank to around 2.7% of gross domestic product according to government data released Friday, the lowest ratio in close to a decade. It is also below the 4% level **which the U.S. Treasury has suggested** is a sign of an undervalued currency.

(*The Wall Street Journal*)

上記の用法の背景を理解するには次の指摘が役に立つ。

That is not a good word to pause upon; when therefore it comes just at a pause *who* or *which* will often sound better. Example.— There are many persons *that* (better *who*), though unscrupulous, are commonly good-tempered, and *that* (better *who*), if not strongly incited by self-interest, are ready for the most part to think of the interest of their neighbors.²⁴

<パターン 8 : 同格表現中の関係代名詞—1 例 (2%)>

(9) He walked another 15 minutes and took a cab to within a few blocks of the bar. It was really a tavern, an old wooden house **which** had been converted into a saloon for truckers and construction workers.²⁵

この箇所はウッドワードが尾行されないようにディーブスロートに会いに行く場面を描写している。「彼はさらに15分歩き、バーの数ブロック手前までタクシーで行った。バーというよりはトラック運転手や建設作業員相手に木造住宅を改修した居酒屋だった」といった意味だが、*a tavern*と*an old wooden house*は同格関係にあるが、後者は「不可欠な情報」というよりは、「補足情報」であり、このような場合には*that*ではなく、*which*が選択されるというのが、筆者の印象である。同様の用法は次のようにニュースでも見られる。

(9-1) Twenty-one of them will go to a factory in Arkansas that belongs to Tianyuan Garments—a firm **which** is the largest producer of apparel for Adidas, a German sportswear firm.

(*The Economist*)

(9-2) Kansai Airports, the company **which** operates the airport in Osaka, says 82 flights departing and arriving there have been canceled throughout the day due to the quake. There's no damage at the airport.

(CNN)

上述の 8 つのパターンは、それぞれに示したようにニュースにも類例が見られる。つまり、*All the President's Men* に見られる制限節 *which* は第 2 項の量的検討と本項の質的検討から判断する限り、*that/which* ルールの例外として制限節で使われる *which* の「通常」の用法と思われる。

4. 用例(1)の検討

All the President's Men には第 2 項で述べたように、54 例の制限用法 *which* が登場する。内 47 例は第 3 項で見たように 8 つのパターンに分類可能だが、残る用例(1)を含む 7 例で *which* が用いられている理由は、これらのパターンの何れにも分類することは不可能と思われる。

筆者の結論を申し述べれば、これら 7 例では前述のように、制限用法 *which* が用いられている共通の理由があるように思われる。それは、関係代名詞節の意味を補足する重要な情報が先行文脈に含まれており、それを示唆するために *which* が用いられている、というのが筆者の推測である。このことを示すためには、7 例それぞれの関係代名詞節を含む文と先行文脈を示した上で議論する必要がある。しかし、先行文脈は複数の段落、あるいは数ページに及ぶ場合もあり、本稿では紙幅が限られているため、用例(1)のみに焦点を当てて検討することとし、他 6 例は当該文のみを参考まで文末脚注に用例(10)~(15)として示すこととする²⁶。

関係代名詞を選択する場合に考慮されるのは当該文の先行詞であろう。しかし、前項の 8 つのパターンを今一度見直すと、当該文の外にある要素が関係代名詞の選択に影響していると思われるケースが見られる。〈パターン5〉がそのようなケースではなかろうか。翻って考えると、非制限用法の *which* には「前の節や文の一部または全体を先行詞とする²⁷」機能がある。この非制限用法の *which* が持つ「遠く（但し、方向は前方）」を指す機能と、〈パターン 5〉に見る制限用法の *which* が持つ「遠く（但し、方向は後ろ）」を指す機能は全く別物ではないと言えまいか。つまり、*which* には、制限用法であろうと非制限用法であろうと、前方であろうと後方であろうと、*that* にはない、遠くを指す機能があるのではなかろうか。もしそうだとすると、用例(1)の前後にこの用法を理解するヒントがあるかも知れない。そこで、用例(1)の前後の文脈を見てみよう（太字と下線は筆者）。

In the four weeks following the election, the reporters went chasing around as if their heads were in a pail of water. They were learning things, but were unable to make any meaningful stories out of what information they got. . . .

. . . . An Assistant Attorney General was convinced that the Dean investigation was “a fraud, a pipeline to Haldeman.” . . . **Mrs. Graham was told by a close friend who had ties to the administration that the phones of several Post reporters and**

news executives were tapped. A sweep which was conducted by electronics experts for a fee of \$5000 turned up nothing. . . . The government had inexplicably failed to execute search warrants for the homes of the five arrested burglars. . . .²⁸

この部分の最初の 2 文は、「選挙後の四週間にわたり、二人の記者は、必死になって取材をつづけた。いろんな事実をつかんでいたが、入手した情報から有力な記事を書くことができなかった」²⁹と訳されている。この後、「入手した情報」が延々と列記されており、用例(1)は 13 番目に記されている。つまり、(1)は 2 文で構成される 1 つの段落と見なし得る箇所第 2 文なのである。前後のそれぞれ独立した段落と見なし得る箇所とは内容的な関連性はないのである。この箇所は、「(*Washington Post* の社主である) グラハム女史は、政府とつながりのある友人からポスト紙の数人の記者と編集幹部の電話が傍受されていると打ち明けられた。五千ドルの経費をかけて盗聴技術の専門家が行った調査も収穫はゼロだった」³⁰と邦訳されている。*sweep* を先行詞とする関係代名詞節は盗聴器の存在をどのように、それだけの費用を掛けて調査したのかを説明しているのに対し、第 1 文は調査が行われた背景を説明している。つまり、*sweep* に関する限定修飾が直後の制限節と第 1 文の記述によりなされており、そのことに関する「前方注意」のシグナルを、*that/which* ルールを意図的に破り *which* を用いることで、読者に送っていると考えることが可能ではなかろうか。もし制限用法 *which* にそのような機能があるなら類例が存在する筈である。次を検討してみよう (太字、下線は筆者)。

(16) BOSTON—Snowbound, I watched the blizzard impounding parked cars at midnight. The veering of the snowflakes under the street lights made me think how nice it would be if we were totally covered by white drifts. Give us a week's moratorium, dear Lord, from the idiocies that burn on every side and let the pure snows cool these overheated minds and dilute the toxins **which** have infected our judgments. Grant us a breather, merciful God.³¹

この文章は、1976 年にノーベル文学賞を受賞した米国の小説家 Saul Bellow が 1994 年に米 *Boston Globe* 紙に寄稿した Op-Ed の第 1 段落である。5 行目に制限用法 *which* が登場する。この *which* の用法に関して米国作家・ジャーナリスト・コラムニストの William Safire は 2005 年に *New York Times* の自身の語法コラムに次のコメントを記している。

In case anyone complained about his use of "the toxins which" instead of that introducing the restrictive clause "that have infected our judgments," I noted that "you get Nobel prizes for literature, not grammar." Bellow promptly responded: "I'm only fair at relative pronouns. I do know the restrictive from the nonrestrictive. 'Which' sounded better than 'that,' and I do go by sounds as well as by grammar."³²

つまり、Safire は Bellow に対して、*the toxins* を修飾する関係代名詞は制限用法であるべきで、従って *which* ではなく *that* を使うべきとして「文学ではノーベル賞でしょうが、

文法では否」といった内容のコメントを送ったと言う。これに対し、Bellow は「私の関係代名詞の理解はそこそこだが、制限と非制限の違いは弁えている。(あの箇所は) *that* よりも *which* の方がしっくりきた。(*that* と *which* の選択は) 文法と共に語感で判断している」といった返事をすぐさま送り返してきた」とのことである。このやり取りは幾つかの点で興味深い。まず第一に、両者共に *the toxin which...* は「制限用法」と判断していること。第二に、Safire は「本例では *which* の方がしっくりくる」という Bellow の語感を共有していないように思われる点である。では、この違いはどこから生じているのであろうか。推測に過ぎないが、Bellow は *toxins* の発生源を *idiocies that burn on every side* とその結果生ずる *overheated minds* であることを *which* を用いて指し示しているのではなかろうか。

上記の推測が正しいとすれば、このような *which* の用法は Woodward と Bernstein の用例(1)と類似している。そして、*All the President's Men* には他に 6 例の類似例が見られる。これは単に、*Washington Post* の 2 人の記者と Bellow の間のみ共有されている関係代名詞制限用法 *which* の用例に過ぎないのだろうか。紙幅の限りがあり、本稿では紹介できないが、同様の用法は米国では Mark Twain の *The Adventures of Tom Sawyer*、英国では *The Economist* や *BBC* の記事にも見られる。*All the President's Men* でも用例パターン 3 の exceptional *which* と並ぶ頻度となっており、一般には認識されていないが、制限用法 *which* の最も使用頻度が高い用法である可能性がある。

5. おわりに

that/which ルールが敢えて破られる場合に、どのような意図が存在するのであろうか。この点に関する包括的な見方は確立されていないように思われる。本稿では制限用法 *which* が先行詞の意味を限定するとともに、先行文脈に関係代名詞節の意味を補足する重要な情報が含まれる場合に用いられていると思われる現象を考察した。筆者は *The JASEC Bulletin* 第 24 巻～26 巻³³ において制限用法の *which* の様々な用法を検討したが、先行詞が関係代名詞から離れた場所に位置する場合、関係代名詞節が長く複雑な構造をしている場合、関係代名詞節中あるいはその最後に読点で区切って句や節で先行詞の例示や説明を加える場合、関係代名詞を伴う文の後にそれと密接な意味を持つ文を加える場合などに、制限用法関係代名詞としての *that* に代えて *which* が用いられている可能性を指摘した。本稿を含む考察が正しいとすれば、制限用法 *which* はそれが用いられている当該文中で、関係代名詞の前方、あるいは後方、さらには後続の文、そして前方の文にも作用する機能を持つことになる。

注

¹ 本稿は 2018 年 3 月 24 日に行われた JASEC 関東地区研究フォーラムにおける「制限用法関係代名詞 *which* の選択 — 前文が要因となる場合」と題する発表に基づくものである。

² ボブ・ウッドワード他 (1974)

³ Bernstein and Wood (1974: 206)

4 例えば、『ジーニアス英和大辞典』の関係代名詞 *which* の解説参照。

5 Webb (1978: 79)

6 小西和久 (2015: 1-24); (2016: 17-31); (2017: 21-35)

7 Biber et. al. (1999:616)

8 10 *Washington Post* stories: “5 Held in Plot to Bug Democrats' Office Here,” June 18, 1972; “GOP Security Aide Among Five Arrested in Bugging Affair,” June 19, 1972; “Bug Suspect Got Campaign Funds,” August 1, 1972; “Mitchell Controlled Secret GOP Fund,” September 29, 1972; “FBI Finds Nixon Aides Sabotaged Democrats,” October 10, 1972; “Still Secret - Who Hired Spies and Why, January 31, 1973; “Dean Alleges Nixon Knew of Cover-up Plan,” June 3, 1973; “Break-In Memo Sent to Ehrlichman,” June 13, 1973; “Nixon Debated Paying Blackmail, Clemency,” May 1, 1974; “Court Orders Nixon to Yield Tapes; President Promises to Comply Fully,” July 25, 1974

9 *Language Log* (<http://languagelog.ldc.upenn.edu/nll/?p=4165>) によると、関係代名詞制限用法の *that* と *which* の米国英語における使用は、1800年代半ばから *that* の比率が上昇する一方で、*which* の比率が下降を開始し、1900年代半ばから今日に至るまで *that* の上昇率と *which* の下降率が加速しているとの報告がなされているが、その原因は明らかにされていないように思われる。

10 Bernstein and Woodward (1974: 25)

11 ボブ・ウッドワード他 (1974: 31)

12 *The Associated Press Stylebook* (2015: 94)

13 Bernstein and Woodward (1974:14)

14 Quirk et al. (1985:1252)

15 Bernstein and Woodward (1974:38)

16 ボブ・ウッドワード他 (1974: 51)”

17 Garner (2016:785-786)

18 Bernstein and Woodward (1974: 21)

19 Bernstein and Woodward (1974:29-30)

20 ボブ・ウッドワード他 (1974: 37)

21 Bernstein and Woodward (1974:43)

22 ボブ・ウッドワード他 (1974: 58)

23 Bernstein and Woodward (1974:271)

24 Genung (1893:94)

25 Bernstein and Woodward (1974: 268)

26 Bernstein and Woodward (1974) (下線は筆者)

(10) By 7:00 A.M., he had 15 pages which quoted extensively from Young. (p. 156)

(11) Their resolve could only be strengthened if once more they were reminded of the oath which had bound their deliberations “sacred and secret.” (p. 223)

(12) CRP would not have paid \$235,000 for inconsequential intelligence which was readily available from the FBI and local police. (p. 231)

(13) The reporters began discussing “leaks” which were bound to come out, and agreed on the dangers of trying to report what would go on inside. (p. 280)

(14) The McCord allegations were only part of the pressures building against the dam which Deep Throat had talked about. (pp. 277-278)

(15) Nixon had met on Sunday with Attorney General Kleindienst and Assistant Attorney General Henry E. Petersen “to review the facts which had come to me in my investigation and also to review the progress of the Department of Justice investigation.” (p. 291)

27 綿貫陽他(2000: 644)

28 Bernstein and Woodward (1974:205-207)

29 ボブ・ウッドワード他 (1974: 320)

³⁰ ボブ・ウッドワード他 (1974: 322)

³¹ “Op-Ed: Papuans and Zulus,” *Boston Globe*, March 10, 1994

³² “*Blurbosphere*,” *The New York Times*, May 1, 2005

³³ 小西和久 (2015: 1-24); (2016: 17-31); (2017: 21-35)

参考文献

Barzun, Jacques. (2001). *Simple & Direct*. 4th ed. New York: Harper

Bernstein, Carl and Woodward, Bob. (1974). *All THE PRESIDENT'S MEN*. New York: Pocket Books

Biber, D., Stig, J. Leech G., Conrad, S, and Finegan, E. (1999). *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson Education

Copperud, Roy H. (1980). *American Usage and Style The Consensus*. New York: Van Nostrand Reinhold

Follet, Wilson. (1966). *Modern American Usage*. New York: Hill and Wang

Garner, Bryan A., (2016). *Garner's Modern English Usage. 4th ed.* Oxford: Oxford University Press

Genung, J. F. (1893). *Outlines of Rhetoric*. Boston: Ginn & Company

Quirk, R., Greenbaum, S., et al. (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman Group

The Associated Press Stylebook and Briefing on Media Law 2015. New York: Basic Books

The Economist Style Guide. 10th ed. (2010). London: Profile Books Ltd.

Twain, Mark. (1876). *The Adventures of Tom Sawyer*. Seattle: Amazon Classics

Webb, Robert A. (1978) *The Washington Post deskbook on style*. New York: McGraw-Hill Paperbacks

“When Charles Dickens fell out with America,” *BBC*, 14 February 2012,

<http://www.bbc.com/news/magazine-17017791> (accessed May 30, 2018)

小西和久 (2015) 「英文メディアにみる exceptional *which* に関する一考察」 *The JASEC Bulletin*, 24 (1), 1-24

小西和久 (2016) 「関係代名詞制限節の *which* について—Barzun の用法に対する Williams と Bolinger のコメントをめぐって—」 *The JASEC Bulletin*, 25 (1), 17-31

小西和久 (2017) 「英文メディアの同格表現にみる制限用法関係代名詞 *that/which* の選択要因につて」 *The JASEC Bulletin*, 26 (1), 21-35

ジーニアス英和大辞典、2001年、大修館書店

ボブ・ウッドワード、カール・バーンスタイン『大統領の陰謀』常盤新平訳、1974年、立風書房

マーク・トウェイン『トム・ソーヤーの冒険』柴田元幸訳、2012年、新潮社

ロイヤル英文法 (改訂新版) 綿貫 陽他、2000年、旺文社